

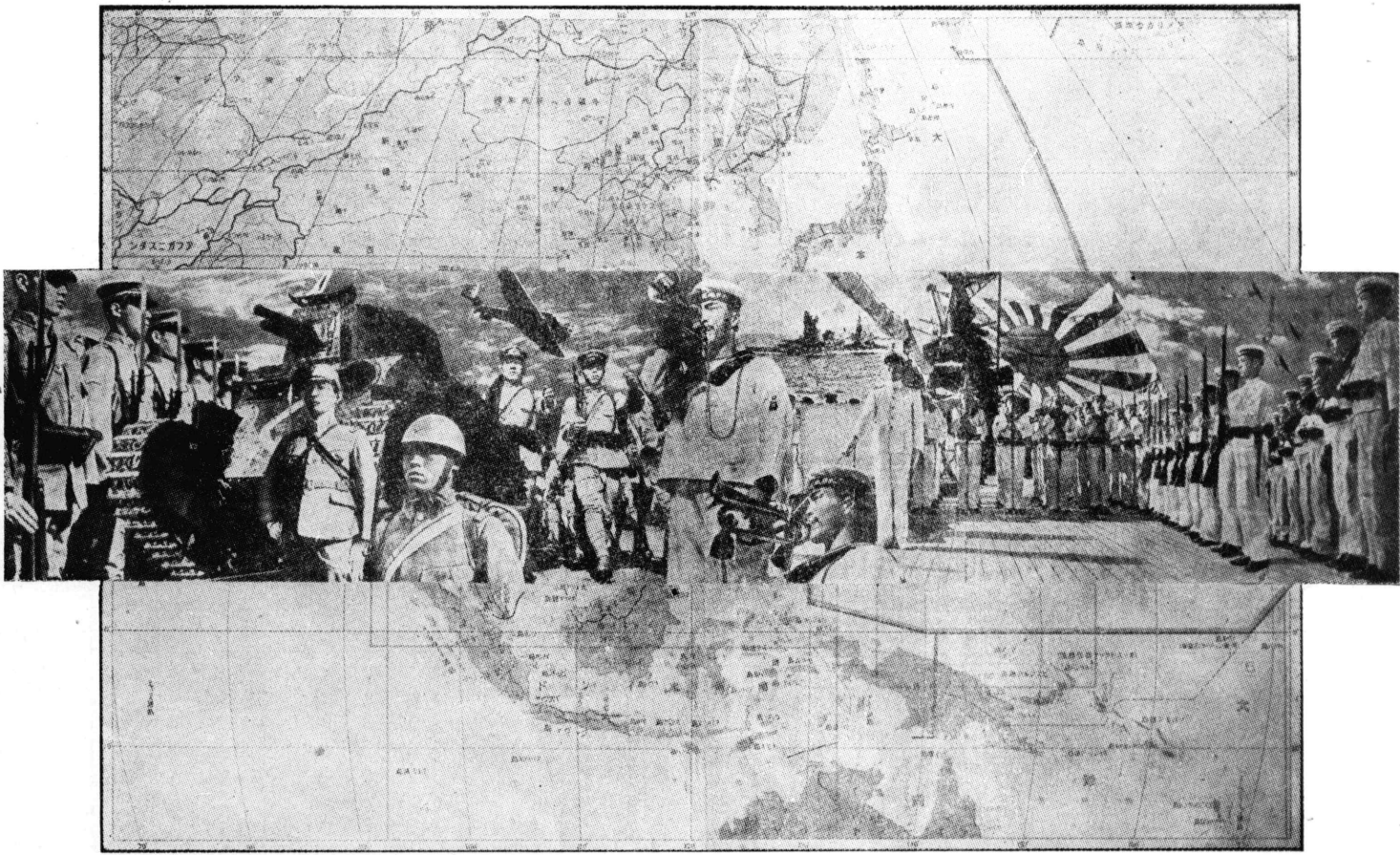
昭和十八年

新年特別號

一月元旦

祈皇軍武運長久

大東亞戰爭第二年

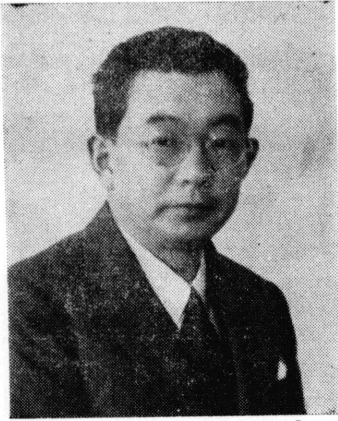


戰捷第二春を迎へて

大東亞戰爭勃發以來早くも勝不敗の態勢を確立すると、茲に一年有餘、戦捷に輝く昭和の共榮國各地の政治を著々...

年頭の辭

特命全權大使 男爵 富井 周



本日茲に皇紀二千六百三年を迎へて遙に聖壽の萬歳と御皇座の彌栄とを祝し奉る...

米國は、相次ぐ敗戦にかゝり開設せざりし爲、赤軍今冬一致動を見出すに困難を來す... 北阿の新事態は收戦佛國に...

年頭の辭

海軍少將 雪下勝美

皇紀二千六百年は帝國の如きは殊に此の感深キの如きは英國に對し戦ひたる。東亞共榮圏は無敵の
有史以來未曾有の記念(一)と國民の忠勇とに依る 争目的を明かにせよと突込 資源(工業用ダイヤモンド
事である。
こと勿論であるが又現戦争も英の帝國主義を攻撃して なども伯備の人口とを擁し
帝國が自衛の爲に敢て立つ 對する觀念の相違と云ふ 居るが、今頃戦争の目的を(一)と敷衍の人口とを擁し
て英米兩國の師を起すや半 ことも見逃し得ざる所であ 云々して居る様では戦争に洋々たるものが
歲ならずして比島、馬來、る、英米の指導者等はモモ 身が入らぬの宜なる哉であるが長期戦に肝要なるは
英國領東印度、ビルマ等我 國の總面積に五倍する巨艦大戦と稱し内外を驚かし居る 敵のデマ宣傳に就ては米

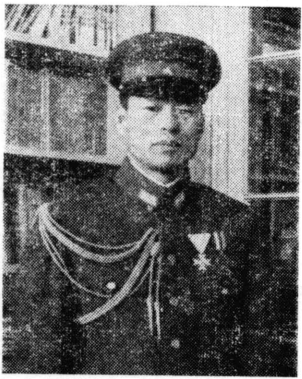


なる地城を占領し更にアリも其の賣安グロソクソクン
ユーション、ソモン、ギのみの自由平等であり、他
ルバート迄に進出し帝國の人種に對し然らざるは米
潜水艦は遠く大西洋に活躍 國民たる黑人に對する差別
して居る、此の如き疎かし 待遇、印度民族に對する懸
き戰績は古往今來洋の東西 迫等に依りても明かである 一カサス進出等により長期戦をねばらぬ。
を問はず眞に未曾有のもの 近時英米にてもこれを非難 戦は愈々英米に不利なりと
である。右は天祐(眞珠灣)するものあり、彼のウセル は英米論者中にも説くもの
とす。
然れども敵は緒戦に大敗の行に邁進せんとしてありて懼れ
吾杯を喫し乍らも日月の経過多し
と共に漸く其の戦力の補填 天皇陛下におかれれば先
張を固り執拗なる反抗を反復 般伊勢神宮に行幸遊され親し
せんとするの態勢を示さんと 皇祖天照大神に戰捷を御祈
しあり、帝國は固より此の事 願遊されし次第にして大御心
未會有の此の時局に際し海
外殊に當地に於て吾人は戦局
の前途尚長きを覺悟し遠く第
一線將兵の勞苦と母國に於ける
舉國一致の決戦態勢に思ひ
を致し各々生業に精勵し將
來情勢に各種變化あるが如き
場合に於ても平素よりの準備
と覺悟に基き上りの指導の下
に冷静事に處し大國民たるの
操縦を失ふことなく苦難不便
を克服し以て大東亞戦争完
遂に幾分たりとも貢獻し皇恩
遂に幾分たりとも貢獻し皇恩
の萬一に酬ひ奉らざるべから
ず。

新年の辭

陸軍武官 鈴木中佐

大東亞戦争下皇紀二千六百感奮して措く能はざる所な
三年の新年を迎へ遂に 皇室より 一方大東亞共榮圏の建設、
の御榮を誇き奉り、併せて 第一線に於て勇戦奮闘しつつ戦力の培養は砲聲に張るるならしめ、外は萬物凍死せん
ある將士に深く感謝すると共 に護國の鬼と化せる戦歿勇士
の英靈に謹みて哀悼の意を表 する次第なり。



願るに一昨年十二月七日暴
戻極りなき英米に對し帝國が
存亡を賭して敢然起つや疾風
陣雷陸海極めて緊密なる協同
の下に速戦速勝半歳にして早
くも必勝不敗の地位を確立し
其の後引き續き敵の反抗を撃
砕しつつあるは固より御後咸
の然らしむる慶なりと雖も亦
死を鴻毛よりも輕しとする忠
誠無比なる皇軍將兵の奮るも
戰に依るものにして吾人の深
臣民の同慶に堪えざる所なり

祝征戰第二年度元旦

山本實雄	田崎實男	星吉平	秋吉寅藏	山本喜平	中村芳治
竹原 太郎	岡部 壯一	廣瀬 寛治	安東 定夫	竹谷 啓二	羽柴 哲
秋葉 新一	北島 覺逸	久慈 忠	出口 貞三郎	崎間 麗德	野崎 丈二郎
府内 喜平	坂本 新吾	河西 勝雄	新垣 永輝	羽生 兄弟	谷 力
宮本 好	喜田 正雄	菊地 喜代治	石川 芳範	郡 十太郎	中田 幸
藤井 精四郎	關澤 仁三郎	久保田 富二	古澤 直太	原田 四郎	西村 善盛
仲村 渠恒郎	廣中 仁一	萩野 健兒	金澤 清	蒲地 盛作	西口 嵐
森 正男	佐伯 克太郎	大城 正雄	大城 賢夫	安里 永行	西村 善盛
		平良 賢夫		全 永光	宮本 肇
				新谷 哲夫	

年頭之辭

帝國領事 大森元一郎

赫々たる戦果の裡に大東亞戦争第二年の新春を迎へ、謹んで皇運の隆昌と聖壽の無窮を祈り奉る。



在亞同胞七千は和民族海外發展の第一線に立ち日亞兩國の親善と各自の運命開拓に奮力、現下の世界大變局に際して苦難を迎へて更に進歩を遂げんとす。

紀元二千六百三年を迎へて

在亞日本人會々長 竹内雄一

歴史上比類なき戦果を以て、深き御聖慮の程洵に畏れ進み、以て皇恩の萬分の終始したる皇紀二千六百三年き極みに存するのあり。

十二月(昭和十六年) 拂曉帝國海軍部隊ハワイ真珠灣奇襲米海軍勢力の七割を撃つ。

大東亞戦争一年史

十二月(昭和十六年) 拂曉帝國海軍部隊ハワイ真珠灣奇襲米海軍勢力の七割を撃つ。米英兩國對日本宣戰。日本海軍對南洋羣島進攻。

祝戰捷元旦

横濱正金銀行南米駐在員事務所

- 新井 堯 男
桑原 喜代 藏
山内 輝彦
須子 正元
橋本 アンヘラ

南米貿易株式會社

ラレア 街 二二八七
電話 四二二二 二二七六

亞國三菱會社

ディアゴナル・ノルテ通 八三三(七階)
電話 三四一五 九八八

兼松リオプラテンセ

ビエトラス街 一三三(二階)
電話 三三一八 六一、八三三

- 大野 幹三
田丸 梯二

在亞日本人會

- 黒瀬 瀨保
小川 勝治
興村 禎吉
安達 本夫
江原 武
清水 陸郎
津田 正夫
鈴木 三郎
細川 隆元
今井 義一
古田 徳次郎
國分 齒科醫院
石川 倉次郎
高市 茂
吉川 六郎

潜水艦と航空機

セヴエレスキー日本空襲論

鈴木三郎

長期抗戦の様相を呈す(一)と云ふは、真面目に米... 潜水艦と航空機... 空軍の重要性を認識して、これが百パーセントの能率發揮を策せよといふのだ。セヴエレスキーの主張である。

祝征戦第二年元旦

- 須賀川太郎 高桑 護 近藤 知次 鴨 秀雄 芦谷 幸一 小川卯三郎 河合 金吾 片山 良平 飯野 榮作 品田 忠重 中村 陽三 島本 重一 大嶽 稔 西坂 等 村松 卓己 石井 商會 大村 商會 原 商會 高池田竹 橋田邊内 信健雄 薰雄造 瀧波 文夫 村井 商會 岩井亞國有限會社 三興株式會社 本多次郎商會 加藤 商會 山元兄弟商會 銀河畔園藝業組合

新國樂樹立と 在亞邦人の使命

X Y 生

日本音楽と西洋音楽、日本する人はいないであらう。算術と洋書、和服と洋服、和食でも、醫學でも、現在では西洋音楽、日本家庭と洋館など、西洋醫學等といふと我々日本人ほど、日常生活に觀念は消滅してしまつて、に自國本來のもの、外來の一種に日本算術、日本醫學とものをもつて二重生活をなしてしまつたのである。

さて、わが國の音楽には、つゝある國民は他に例の影いごとと思ふ。例へば、獨逸人の日本音楽と西洋音楽と言ふ名場合、その音楽、繪畫、服裝、稱の上に二つの音楽が存在し食物、建築において、彼等は、現代に遺る我々の如き所謂二重生活を待たない。

今日我々の有する文化は古來外國の文化を攝取し、これを模倣し、咀嚼し、終に外國本來のものから脱脚して、我國獨特のものを醸出したのである。

而して、本國の外國で消滅し終つた文化が、今尚、我國に存在してゐるといふのは、他に色々の理由があるとして、我國が島國であり、大陸から離隔して居つたといふ地理的條件が、我々をして古いものを保存せしめ、尙且、これを尊重して來た最大の原因となつたであらう。

乍併、外來文化の全てが時代と共に向上發展して、日本の傳統的、國民的のものになつたといへないのである。我々日本人の日常生活に對する態度は歐洲人に比較して極めて精神的であるが、一方、近代藝術の美的要素である、甚だ實用主義のところが、骨髄となつてゐるからである。あまり實用的でないものは、外國から傳達されて以來、何百年経つた今日でも未だ「日」本に於いては如何にも「味」のあるものになつてゐない。これに反し、わが國民性の反映である。

實用的なものは短年月間に全然これを横取りして済してゐるものがある。これは繪畫や俳句等にも、永久に保存すべきものである。我が國が軍人の着用する服装は「洋服」と呼ばず「軍服」と言つて、世人は何もこれを不思議がらない。明治初年に、わが文部省は日本算術を捨て、「西洋算術」を採用して今日に及んだ。醫學においても同様、漢法を廢が琉球からわが國に傳來され、西洋の醫學を採つた。現今、わが國の算術を「西洋算術」と稱する人なく、醫學を「西洋醫學」と夢想に取も直さず三味線樂は「江戸

時代」の音楽であつたが、敢うに想はれる。早、今人の音楽でないことを證してゐるのである。洋樂こそ邦がくに代り、わが國將來の國民音樂樹立の基礎となるべき唯一の音がくであると思ふのである。

而して、從來の邦がくは單に「三味線樂」「琴樂」等と稱し、實質的音樂の存在として充分な庇護の下に出來る限、原型を失はしめず永久に保存されるべきものであらう。洋樂をもつて新國がくを樹立せよなどといふと、日本精神がなくなるかのやうに想ふ人がなくとも限らないが、洋がくを採用するといふことは音楽上の様式の問題であつて、我々が洋服を着用しても日本人であることに變りがない如く、洋樂を新國がくとしても音の上の内的要素は何等かの變化はないのである。

古色然たる舊世紀の遺物としか思はれない邦樂の多くが單なる考古學的的存在となり算術や醫學等と同様、「日本音」がくや「西洋音樂」など稱する區別がなく、洋がくが結局新國樂となるべき時代が案外近い將來に來るのではないか。

かういふ見地からして、私は常に在亞邦人の日常生活と音樂に關聯して色々と考へさせられることが多い。我々は音樂家でない以上、音樂を専門に研究する必要はないが、文學のアマチュアであるのと同様に音樂のアマチュアでありたいと思ふ。音樂は文學や繪畫とともに、文化生活の内容を豊富にする一要素であるから、洋がくを鑑賞し得るといふことは文化人たるコンディションの一つである。

現今、武市は世界中一番音樂に恵まれた都市といふことが出來、善い音樂に接するチャンスが頗る多いのである。音樂家が亞國へ流れ込んで來た結果、音樂シーズンには、ラヂオ、コンサート、オペラを通じて純音樂を聴く機會が無數にある。

我々が音樂家でなくとも、豊富な知識を持ち、鑑賞力に富むといふことは、戦後、わが國の新國樂樹立に當つて直接間接に益すること甚だ多いや

皇軍大捷の春を祝す

山田商會

モレーノ街二〇三七
電話四八—四〇九四

辻商店

チーレ街二九九
電話三三一五七四四

勝田商會

メヒコ街 一四七四
電話三八—二二二二

下里己之助

ロケ・サエンス・ペーニア通六二六(二階)
電話(三三)一〇一五

安東商會

デフエンサ街五四〇
電話 三三一三二九六

服部定雄

インデペンデンシア街二六五〇
電話 四五—三二一八

横濱建吉

エスメラルダ街一〇八〇
電話 三一—八六〇一

大阪商船株式會社

アベニダ・ローケ・サエンス・ペーニア通六二六(二階)
電話 三三一—〇五一・一〇五二・一〇五三・三五六五

高橋常作

和久虎三

横尾一

田川清

俊寛の臍の置き所

桑原生

眞珠灣の一撃に因つて世界化、的戰國動亂時代の幕が切つて、及び科學の進歩であらうが少...

大東亞戰爭一年史

一月 米國の新授借借款五億、弗案米下院で可決、海軍大學スラバヤに對し大...

祝征戰第二年元旦

Table listing names and locations for the New Year celebration. Includes names like 酒井和一, 宗像三郎, 丹野國雄, 伏見兄弟, 吉田仁吉, 山内仙吉, 比嘉眞正, 伊計武, 比嘉眞榮, 仲松彌祐, 安里德仁, 新垣昌信, 掛福龜眞, 全政基, 田邊實, 木暮喜平, 照屋敏雄, 舟戸繁雄, 富田源吉, 高橋力藏, 西郷貢, 糸長宅馬.

皇軍大捷の春を祝す

洗色店「東京」

神谷繁雄
大城清一
神谷繁吉

ツクマン市

カフェ「東京」

堀田勝
井上啓行

コンコルディア市

カフェ「ハポネス」

新澤盛吉
外店員一同

サンタ・フエ市

バー「ニッポネス」

比嘉民和

サルタ市

カフェ「ハボン」

前橋藤吉

サルタ市

染色店「ラ・サツマ」

小橋利憲
濱崎純則

サルタ市

染色店「ハポネサ」

志伊良正蒲
全正福
大城加那
照屋與孝

サンティアゴ・デル・エステロ市

カフェ「日本」

儀間康英

ツクマン市
二四・デ・セ・テイ・エンブレ機四六八

比嘉爲輝
比嘉爲輝
比嘉爲德

ツクマン市

染色店「ロス・イ・コロレス」

三島定志

サンティアゴ・デル・エステロ市

大城三郎

久保田秋義

宮崎門太

吉原繁雄

智那定輝

有木彦十郎

吉田龜市

小港甚藏

藤田正夫

島田要

大城仁盛

松山始

石原喜右衛門

湯澤健吉

伊東金五郎

大城定信

全道徳

遊佐周藏

貴島滿徳

大城定勇

全榮助

翁長武幸

橋口鐵太郎

石井勝治

全淺吉

親川三郎

石原松左衛門

吉永伊勢松

山口武雄

竹迫三次郎

上野増太郎

川島泉

清水勳

得永末吉

山形淺吉

根本政四郎

翁長武一

當間加那

翁長武賞

佐藤嘉佐治

全比嘉和盛

比嘉民秀

大前文吉

全嘉四郎

二大東亞戰爭寫真ページ二

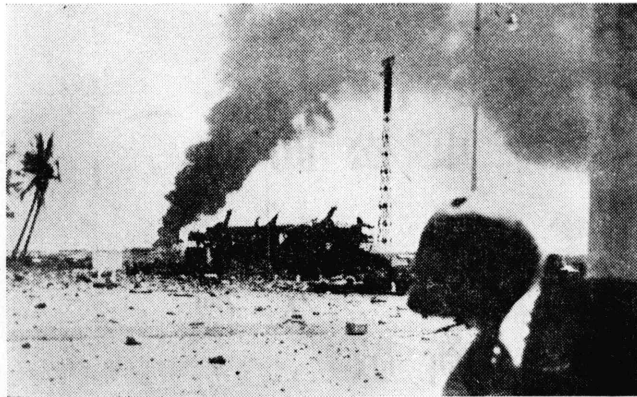
英國東亞侵略の最重要據點シンガポ
ール島の英軍降伏、白旗掲げて皇軍
陣營に向ふ敵の軍使



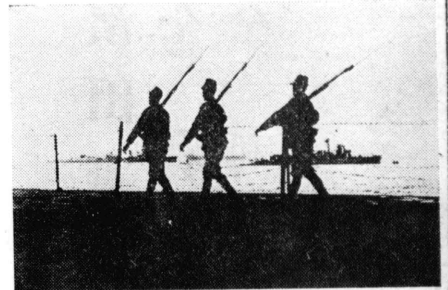
敵撃滅の出動命令下つた海軍部隊に
對し島田海相の訓辭



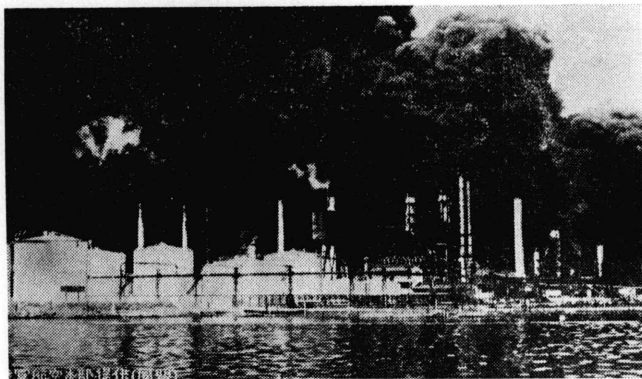
マライ半島戦においてわが軍兵によ
り武装解除された英國兵



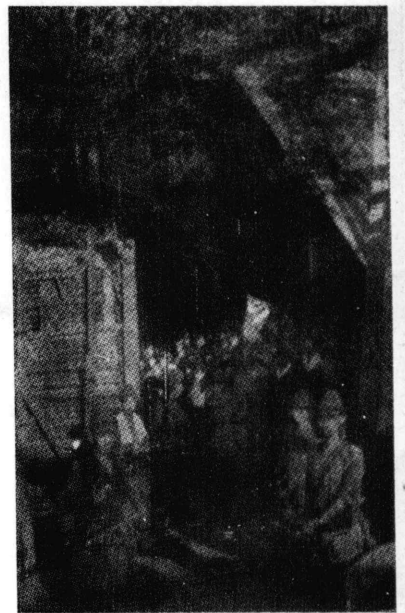
シンガポール島セレーター飛行場、わ
が荒鷲の猛爆で敵施設が炎えてゐる



皇軍占領下の香港、沿岸歩哨動向中
の海軍陸戦隊員



スマトラ島バレンパンの精油所、皇軍の攻撃によ
り貯油庫が炎上し濃々たる黒煙天に冲する光景

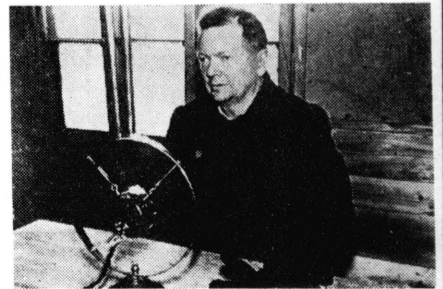


比律賓群島コレヒドール島要塞地下
道より續々わが軍に投降する米兵



ジャワ海戦、海鷲の命中弾
を喰つた英艦巡艦が沈没し
て行く

わが軍は常に敵の戦死者と雖もこれを惡
ろに弾り、其靈に敬弔の禮を盡してゐる



わが軍の俘虜となつた米砲艦ウエー
ク號艦長海軍少佐スミスの母國アメ
リカ向けラヂオ放送

大東亞戰爭一周年

十九日 海軍部発表、ト、ダ
 一、ウチノを急襲す
 皇軍ジャワのバリ島に上陸
 二十日 皇軍ポルトガル領チ
 モール島を占領、遠東側は
 情勢の重大化に周章狼狽を
 極む
 廿一日 大東亞海軍の敵航
 空兵力減滅し去リニ、ニ、
 ニヤ沖洋上で敵空母を大破
 廿二日 比島派遣軍は、
 廿三日 比島派遣軍は、
 廿四日 比島行政機構準備
 廿五日 ビルマ方面の陸軍部
 廿六日 比島派遣軍は、
 廿七日 比島派遣軍は、
 廿八日 比島派遣軍は、
 廿九日 比島派遣軍は、
 三十日 比島派遣軍は、
 三十一日 比島派遣軍は、
 一月一日 比島派遣軍は、
 一月二日 比島派遣軍は、
 一月三日 比島派遣軍は、
 一月四日 比島派遣軍は、
 一月五日 比島派遣軍は、
 一月六日 比島派遣軍は、
 一月七日 比島派遣軍は、
 一月八日 比島派遣軍は、
 一月九日 比島派遣軍は、
 一月十日 比島派遣軍は、
 一月十一日 比島派遣軍は、
 一月十二日 比島派遣軍は、
 一月十三日 比島派遣軍は、
 一月十四日 比島派遣軍は、
 一月十五日 比島派遣軍は、
 一月十六日 比島派遣軍は、
 一月十七日 比島派遣軍は、
 一月十八日 比島派遣軍は、
 一月十九日 比島派遣軍は、
 一月二十日 比島派遣軍は、
 一月二十一日 比島派遣軍は、
 一月二十二日 比島派遣軍は、
 一月二十三日 比島派遣軍は、
 一月二十四日 比島派遣軍は、
 一月二十五日 比島派遣軍は、
 一月二十六日 比島派遣軍は、
 一月二十七日 比島派遣軍は、
 一月二十八日 比島派遣軍は、
 一月二十九日 比島派遣軍は、
 一月三十日 比島派遣軍は、
 一月三十一日 比島派遣軍は、

祝戦勝元旦

カサ「どり」

津曲 諦二
 伊藤 誠一郎
 黒木 由太郎

カフェ「朝日」

比嘉 徳次郎
 同 久太郎
 松本 敬是
 東江 新一

コリエンテス市

染色店「ラ・サツマ」

濱田 義雄
 全 利光
 全 利雄

ツクマン市

染色店「ハボネス」

玉井 榮吉
 前門 金助

レシステンシア市

染色店「ミル・コロレス」

伊波 成一

コリエンテス市

染色店「ハボネス」

濱端 加那吉

コリエンテス市

レストラン「ハボネス」

與儀 銀藏
 同 よし子
 同 健一
 同 エミ子

コリエンテス市

珈琲店「ハボネス」

岩田 友志
 青木 貞夫
 前田 甚太郎

平山 春芳

カフェ「東京」

田中 榮三

サン・フランシスコ市

カフェ「ニッポネス」

鶴 辰次
 全 辰馬

富士

アスール市

コンフイテリア「アギラ」

カフェ「ハボネス」

石原 正一

サンテイアゴ・ゴ・デル・エスターロ市

ラファエラ市

松本 等

佐藤 清治

平山 茂樹

桐原 茂

珈琲店

コルドバ市

一年の回顧

田川 清

大東亞戰爭勃發してはや一ツは皇軍の武運長久を祈つて年の日は過ぎた。思えば吾々のこの一年は...

大東亞戰爭一年史

五日 海軍部発表 英海軍が北極海を航行し...

皇軍大捷の春を祝す

RESTAURANTE JAPONES DE Luis S. Yamagishi RIVADAVIA 484 Cordoba

藤田友八 チビルコイ市

上原清正 コルドバ市

玉城福棟 外店員一同 コルドバ市

石堂 謝花 共營 コリエンテス市

大城守一 コルドバ市

比嘉德永 比嘉繁助 コルドバ市

上原清全 上原清次 コルドバ市

大城定勝 コルドバ市

與那原繁 外店員一同 コルドバ市

比嘉新太 ロサリオ市

新垣龜 ロサリオ市

大城清成 ロサリオ市

伊波龜 永村清治 中山藤四郎

大城吉儀 金子榮

大東亞戰爭一年史

廿二日 日泰新協定換算率協
定成り東京で假調印行はる
此島方面にバタイ島嶼定作戦
終る

廿三日 南方開戦の最重要據
點昭南の造船工事復興作業
進む

廿五日 天皇 皇后兩陛下
國神社に行幸啓あらせらる
盟邦泰國派遣の日泰同盟慶
祝使節團長以下一行入京

廿八日 帝國海軍部隊は去る
十九日 ニューギニア北半
らびにモルッカ諸島を完全
占領せる旨大本營發表

廿九日 大東亞戰下の天長
節を迎へ前線後援無窮
を誇ぐ

三十日 翼贊會議の確立目指
す第二十一回衆議院議員
選挙全國一齊に舉行

五月

一日 皇軍北ビルマの要衝マ
ンダレーを占領
衆議院議員選挙開票の結果
推高候補壓倒的の優勢で新
人進出目覚し

四日 皇軍ビルマ印度國境の
アキヤブ飛行場を占領

五日 大東亞建設會議で大
東亞建設の基本理念決定す
ニューギニア東部方面に活
躍の海軍一週間の大戦果發
表さる

六日 証術術氏滿華強化のため滿
洲を訪問

六日 皇后陛下には日本赤十
字社總會に臨ませらる
總選挙終了を機に新政治力
結集のため政府積極的に乗
出す

七日 皇軍コレドール島を
塞及びマララ諸島を完全
塞を完全占領

大日本興亞同盟新規約を決
定總裁に林銑十郎大將を任
命新發足

八日 ニューギニア島南方洋
上において行はれた海戦を
珊瑚海大戦と呼稱されその
大戦果を大本營發表
ビルマ方面の皇軍雲南省境
を突破する五日龍雲占領の
旨發表さる

本年度生産擴充計劃開議に
おいて正式決定

九日 我艦隊マニラに入港す
十日 ビスマルク群島完全に
わが制壓下に入る
ミンダナオ島の米比軍司令
官無條件降伏、全比島の勘
定完了

十一日 大元帥陛下には南方

▲而臨最高指揮官並に聯
合艦隊司令長官に對し勅語三日 高松宮殿下滿洲より
を賜りビルマ及び印度洋方
面海軍部隊勇戦奮闘を嘉四
賞あらせらる

ビルマ作戦綜合戰果發表
十二日 大元帥陛下には聯合
艦隊司令長官に勅語を賜り
珊瑚海大戦における航空部
隊の勇戦奮闘を嘉賞あらせ
らる

十四日 コレドール島攻陥
戰の戰果發表さる

十五日 大政翼贊會機關新
方針開議で決定

十六日 雲南省ビルマ公路進
撃中の皇軍は去る十日騰越
占領の旨大本營發表
金子堅太郎伯爵去す

十八日 陸軍印度東部を初空
襲す

十九日 陸軍航空軍司令部を
制定六月一日より實施

ソ聯政府歸國中の駐日大使
スメタニンの後任に同大使
館參事官マリクを任命

二十日 翼贊政治會本部大將
を初代總裁に推し發足

廿二日 わが新鋭部隊は空軍
協力下に浙東方面に新作戦
展開中なる旨中支支隊發表

廿六日 滿洲建國十周年に際
し高松宮宣仁親王殿下御渡
華あらせらる

日華連絡船長崎丸は去る
三日長崎港外において機雷
に觸れ沈没せる旨通信省發
表さる

廿七日 天皇陛下の親臨を仰
ぎ第八十臨時議會開院式行
はる

日泰共同作戦の泰軍ビルマ
に進軍の旨發表

廿九日 第八十臨時議會翼贊
體制確立の使命を果し閉會
朝鮮總督南次郎大將樞密院
顧問官就任に伴ひ小磯閣昭
大將後任に親任さる

滿洲國皇帝陛下には御滯滿
中の高松宮殿下を御正賓に
盛大な御午宴を催さる

國民政府訪日特派大使蔣民
誼氏一行入京

卅一日 ジャワ島のわが軍政
部外人私有土地全部を接收
することに決定

南支のわが精銳部隊は余漢
謀麾下の敵數萬を殲滅すべ
く突如行動を開始

六月

一日 工業既成地域及び工業
建設地域に關する暫定措置
開議で決定

二日 ソモン群島フロリダ
島の要衝ワラギ完全占領に
よりわが海軍部隊の全群島

勘定終了の旨發表さる

御歸國あらせらる

飯田最高指揮官ビルマ
の獨立を保障暫時軍政施行
の旨布告

去る五月三十一日わが
特殊潛艇艇はマダガスカル
島デイゴスアラレス港並に
瀾洲シドニー港を襲撃敵艦
擊沈破、特殊潛艇艇三隻未
歸還なる旨大本營發表

中支方面作戦に呼應北支軍
突如黄河を渡りオールドス高
原に一大進攻作戦展開

七日 大東亞戰爭開始以來五
月三十一日までの六ヶ月間
の陸軍綜合戰果發表さる

開戦半ケ年のわが大戦果歐
米諸國に大影響與ふ

九日 安藤翼贊會副總裁國務
大臣として入閣

台灣に志願兵制度公布應募
者四十二萬を突破

十日 わが海軍は五日ミッドウ
エー島を攻撃大戦果發表又
七日アリューシャン列島敵
重要據點を占領タツチハー
パーを奇襲せる旨大本營發
表

十一日 關門トンネルの列車
試運転行はる

盤谷に印度獨立聯盟本部設
置さる

去る五月二十五日ロンドン
において英ソ軍事同盟締結
された旨英ソ同時發表、
但し日本を目標とせずと
十二日 大東亞全域にわたる
昭和十七年度交通員實施
計畫開議で決定

わが軍の漸進作戦進む
米側珊瑚海戦において空母
レキシントン號喪失事實を
確認

十五日 盤谷で印度獨立聯盟
總會開催され東條首相祝電
送る

わが軍揚子江上流方面の敵
殲滅戰開始

十九日 南方要員充足のため
行政事務簡素強化を斷行
に開議決定

二十日 ホート・ドーウキン
に對する去る二月十九日の
初空襲以來本月十六日まで
の戰果發表さる

廣田元首相以下十六名泰
國へ答禮使節として派遣に
決定

わが潜水艦カナダのバンク
ーパー島を砲撃

廿二日 わが潜水艦前後二回
にわたり米國オレゴン州北
部沿岸を砲撃

廿三日 チャーチルとルーズ
ヴェルトの第三回華府會談
を情報局第三部長批判
印度政廳反英運動の全面的
彈壓に乘出す (次頁へ)

祝征戰第二年元旦

カフエ「東京」 平井兄弟 サンタ・フェ市	カフエ「東京」 三浦與吉 サラテ市	カフエ「ハポネス」 庄司善衛門 松山嘉次郎 巴拉ナ市	カフエ「ハポネス」 安川鴻藏 内間良助 森園謙一 牧野丈夫 長濱幸善 金城武治 賀數亀一 新里正廣 新垣良廣 玉城喜慶 那須壹郎
「ロス・パンコス」 寺田義雄 寺田秀雄 レスステンシア市	染色店「東京」 山内與樽 サラテ市	染色店「東京」 渡河敷眞昌 巴拉ナ市	染色店「東京」 宮城武明 良安 サンタ・フェ市
上間源昌 サンタ・フェ市	染色店「東京」 與那峯蒲助 サン・フランシスコ市	染色店「東京」 前高屋實 巴拉ナ市	洗色店「東京」 前武田龜 コンコルディア市

浮世行進曲

片山良平

月日は廻る、春来た人につくものだ。都合がよく夏過ぎ去りて、驅け行く一なれば、世話になつた出入は昨日のやうだ、又してもりもしくなる。困つてゐる迎へねばならぬ新年を考へる昔のことを知られてゐるからと、餘りに短い一年が恨めし近付かないばかりでなく、甚い。年々歳々花相似たり、歳だしいのは、却つて思人の悪々々々人同じからず、といふ口をさへするといふ、に至つ詩がある。が、自分を眺めては得手勝手も甚だしい。特見ると、歳々相似たりけり慢に頼まれたわけでもないのに、性の貧乏で年々老ひ行く肉體を、目の都合上、忠實振りを見せようしやうにもない。悲觀はつけ、親切の押し賣りをし、身の毒だ、征貨術に若返り法その入れ合せに思ひ寄せがまし吹聴したり、勝手な振るまひをして平然たる困り者など

皇軍大捷の春を祝す

Table listing names of military figures and their locations, organized in columns and rows. Includes names like 大畑勇, 上原淳, 尾上金四郎, 水野爲五郎, 南條孝一, 米山直志, 松崎基, 井ノ口榮, 池田寅雄, 星清藏, 浅井政七, 田村一恵, 菅野和助, 稻富忠, 稻富孝輔, 池原嘉誠, 比嘉榮一, 佐藤和右衛門, カフエ「東京」, 本出嘉太郎, 比嘉善雄, 米須精一, 高橋美智義, 山内一正, 上村一夫, 池田貞雄, 金田貞雄, 上村清市, 松浦道政, 照屋龜助, 石本久治, 佐川完隆, 福田勝市, 新垣賀眞, 比嘉篤昌, 比嘉英夫, 外間文一, 漢那安盛, カフエ「富士」, ビジャアマリア市, 仲宗根宗龜, レシステンシア市, 中村米助, 山口末吉, 照屋文太郎, サルタ市.

ふお話で、世の中はそんな分のやりの悪いのを糊に上泣きことをいつて欺す輩が多過ぎるのだと、意氣消いからまあ一應は断つてしまふ。沈して暮らさむが人情だ、ものだ。ソレが泣きでなく、泣きながら願望するに足らずほんもので、貸して貰へな道場必らずしも受ふるに足らかつた爲にクタクタと聞けず。天氣尚ほよし、雨又よし、可愛想にどうにかしてや、この氣持ぢだ。これでやかう

大東亞戦争一年史
廿五日、アフリカ列島
日ヤスカ島を八日アツツ島
を奇襲占領の旨大本營発表
右兩島の地名は鳴神島及び
熱田島と改めらる
中立國を通じ交渉中の日米
外交官交換の第一回分實施
決定の旨外務省発表
日滿支通商懸案會で東京一
日滿支通商懸案會で東京一
日滿支通商懸案會で東京一
日滿支通商懸案會で東京一

人生不如意
人生不如意があたり前、
毎も足りないのがこれまた常
なり、と、足るを知らぬ、思
ふ通りに参らぬからこそ働け
るのだ。思ひ通りになるまで
働かば、など、解つたやう
な、解らぬやうな、強がり
いつてみた處で、足つても足
りなくとも、思ふやうになつ
てもならなくとも、死ぬまで
は生きねばならぬ。苦んで生
きるが、つらくならぬ死する
よ。生きるためには、斷然
働かねばならぬ。よし金があ
らば、無等徒食は絶對に
かりならぬのだ。

無題放言

平良清盛

何時の世からこんなことの中に入つて行きますからなつたか知らないが、自分の...

肉體的享樂は悲しみと恐怖...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

「道」といふものを造り出す...

四季くづし

鬼面坊作

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

春はうれしや 二人揃ふて...

夏はうれしや 二人揃ふて...

秋はうれしや 二人揃ふて...

冬はうれしや 二人揃ふて...

祝征戦第二年元旦

喜屋武哲雄

明興園本部 賀集九平

明興園生部 賀集万吉

理想園 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平

賀集九平 賀集九平



同原儀七 熊三

加藤吉隆 竹内武義

仲兼久前和 全前助

仲宗根宗雄 城間喜太郎

福田静次

守與兵衛

カフエ「東京」

吉田一月 吉田茂

岩淵哲夫 菅原長吉

山田忠重 成田彰

太田千代繁 賀集九平

佐々木米松 庄司善七

山田忠重 成田彰

山田忠重 成田彰

新春詠草 城取生

カフエ「京都」

大東亞戰爭一年史

二十日 第二次回海の記念日に... 海軍の功績を表彰... 陸軍の功績を表彰... 皇軍大捷の春を祝す

皇軍大捷の春を祝す

Table listing names and titles of military and government officials, including 山下八郎, 五十嵐俊二, 矢島幸男, etc.

Advertisement for 'NIPPON DE' by Carlos Okumura, located in CAFE Y BAR, AV. GENEAL PAZ 2868.

Advertisement for '大坪喜義' (Otaira Kiyo) and '新屋敷豆腐店' (Shinryu-shu Tofu-ya).

Advertisement for '東洋バ' (Toyo Ba) and other businesses like '昭和館', 'カフエ東京', '宮園新之助'.

大東亞戰爭一年史

十一月

十三日 第一回日滿華興會聯合會東京で開演
十四日 東京で陸軍南方軍政會議を開演
十五日 鐵道省記念式を舉行す
十六日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
十七日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
十八日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
十九日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十一日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十二日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十三日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十四日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十五日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十六日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十七日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十八日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
二十九日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる
三十日 天皇、皇后兩陛下に
は靖國臨時大祭第二日、畏
くも同神社に幸啓あらせ
らる

祝征戰第二年元旦

仲間平助	菊地卯三郎	大橋良弘	佐藤小二郎
村山納	原田靜雄	善野貞雄	中川未亡人
全春雄	中江定吉	緒方義雄	小園與四郎
星野留造	西坂商店	西坂貫太	木村政太郎
星野留造	木村政太郎	ラ・ムスメ	大城幸仁
大城幸仁	高倉謙	安次富三郎	全寛補
高倉謙	安次富三郎	全寛補	川村南海男

新里榮幸	日本堂	大城幸仁	高倉謙	安次富三郎	全寛補
小林敬吉	比嘉昌龜	福間桂四郎	三塚一郎	真鍋辰夫	川村南海男
白鳥幸人	石川清繁	梶原猪太郎	入植者一同	水野勉	
永田左近之丞	オベラ	カンボ・グラデ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ
増田朗	オベラ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ	ラ・オテイリア
	オベラ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ	ナランヒート
	オベラ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ	ナランヒート
	オベラ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ	ナランヒート
	オベラ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ	ナランヒート
	オベラ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ	ナランヒート
	オベラ	カンボ・ヴィエラ	サンタ・アーナ	サン・イグナシオ	ナランヒート

星中に付年賀の禮を欠く
稻嶺盛益

亞爾然丁時報社

水野勉